

『日台大辞典』の方言語彙

林 美 秀

1 はじめに

1895年、日本は台湾を占領し、台湾総督府を設置した。そして同年7月に、台湾総督府学務部が、現在の台北市にある芝山巖で、日本語教育を開始した。占領当初、日本人が一番悩まされたのは、言語不通である。だから、台湾総督府学務部は、日本人に台湾語を、台湾人に日本語を理解させるために、教科書や辞書などの書籍を数多く編纂した。台湾総督府が出版した辞書は下記の6冊で、その責任者は、いずれも小川尚義であった。

『日台小字典』¹ (1898)、『日台大辞典』(1907)、『日台小辞典』(1908)、
『台日大辞典』(1931-32)、『台日小辞典』(1932)、『新訂日台大辞典上巻』² (1938)

また、台湾総督府以外の組織から出版された日本語と台湾語の対訳辞書は、下記の3冊である。

『台日新辞典』(1904、杉房之助)、『公学校漢文自習辞典』³ (1924、台湾漢文研究会編)、
『台日新辞書』(1931、東方孝義)

以上の中で、本稿では、1907年に台湾総督府民政部総務局学務課が発行した、『日台大辞典』に注目したい。『日台大辞典』(以下、『日台』)は、発行当時において語彙数が最も豊富な日台辞書であり、台湾総督府出版の台日辞書の大元ともなった辞書である。本辞書の「凡例」には、「本書ハ、現今、日本ニ於テ行ハルル、談話語、及ビ文章語ノ中ニ就キ、最も普通ナルモノ、大約四万二千余語ヲ採リ、之ニ台湾語ノ対訳ヲ施セルモノナリ」とあり、当時の普通の談話、文書に使用する日本語が、約42000語収録されている。また、本辞書の「日台大辞典緒言」には、157頁に亘る「南部福建語ノ特徴」という部分がある。これは、中古漢音類(『韻鏡』による)を基本として、漢語の各方言(廈門、福州、客人、広州、上海、

¹ 本辞書は小川尚義だけではなく、上田萬年も編纂責任者となっている。本辞書は、上田萬年が日本語の見出し語を選定して、小川尚義が台湾語訳を施したものである。

² 『新訂日台大辞典上巻』は『日台大辞典』の改訂版で、「ア」から「シ」までの50500あまりの日本語が収録されている。日中戦争の影響により、下巻は発行されなかった。

³ この辞書は現存しないが、呉(1955)で、台湾語と日本語の対訳辞書として紹介されている。

温州、寧波、南京、北京)の語音と域外漢音(朝鮮、安南)を比較して、閩南語の特徴を明らかにしたものである。村上(1989)や洪(1994)などの先行研究では、現代言語学の方法で漢語方言の語音を比較した、優れた研究として評価されている。『日台』は学術的な面(優れた漢語語音研究)と語彙数の面から、当時の台湾語研究の集大成と言うべきものである。

また、本辞書は、日本語研究においても価値のあるものである。『日本国語大辞典第二版』(以下、『日国』)は、現段階において初出例と目される用例を挙げているが、その用例よりも早い例が、『日台』にはかなり見られる。例えば、「カンキリ」という語は『日国』では、「缶詰のふたを切り開く道具」と記述され、初出例として1958年の『芽むしり仔撃ち』の例が挙げられている。しかし、1907年発行の『日台』には、「カンキリ」という見出し語がすでにあり、「缶詰のふたを切り開く道具」という意味が台湾語で付されている。しかも、『日台』が編纂される際に参考された5冊の先行辞書(『和英語林集成』⁴(1886)、『日本大辞林』(1894)、『帝国大辞典』(1896)、『言海』(1889-1891)、『ことばのいづみ』(1900))にも、「カンキリ」という語は挙げられていない。缶詰は1804年にフランス人によって発明され、日本では1877年に長崎に県立缶詰試験場が設立されたが、一般に普及したのは日清戦争(1894-95)、日露戦争(1904-05)の軍用食として利用されてからである。時代的な背景から考えても、缶詰のふたを切り開く道具である「カンキリ」という語の初出は、『日台』まで遡ることができると言えよう。『日台』のア行とカ行の見出し語において、5冊の先行辞書に挙げられておらず、『日国』の初出例より早い語は、66語もある。このように、『日台』は、明治期の言語資料として活用される価値のある資料だと言える。

ところで本辞書は、先にも述べたように、日本初の植民地である台湾で、政府主導の大規模な日本語教育が行なわれていた中で編纂されたものである。本辞書の見出し語をどのように選択したか、日本語に対応する台湾語訳のない語については、どういうふうに台湾語訳を工夫したか、台湾語訳は正しいかどうかなど、調査・分析し、考えねばならない点も多い。本稿ではまず、『日台』の見出し語に着目し、その特色を明らかにしたい。

『日台』の記述は次のようになっている。

⁴ 『和英語林集成』は、初版が1867年、第二版が1872年、第三版が1886年の発行である。しかし『日台』がどの版を参考にしているのかは不明である。そこで、調査に当たっては、便宜的に語彙数の一番多い第三版を使用した。

これを本稿では、便宜上、下記のように記述する。

で説明されている語は、40語である（使用地域の内訳は、表（一）を参照されたい）。中でも、一番数が多いのは愛媛方言で、愛媛方言としての使用が見られる語は、15語（1～15）にのぼり、全体の37.5%を占める。

例えば、(1)の「オオバ」は、『日国』⁵の7つの意味をどれも挙げておらず、方言の意味だけ挙げている。(2)の「オッコオ」は、『日国』の「面倒で気が進まないさま」と同じ意味を挙げるほか、愛媛方言などの「大げさなさま」の意味も挙げている。(3)の「オオチャク」は、『日国』の「ずるいこと」のほかに、愛媛方言の「尊大なさま」の意味も挙げている。ほかの例も同様である。紙幅の関係で、(1)～(3)以外の例は、『日国』の方言部分の説明だけを挙げる。

(1)「オオバ」

『日台』（大場）「一ナ物」鎮位的物【場所を塞ぐ邪魔なもの】。虚進的物【大きくて邪魔なもの】。

『日国』（大場）（一）（名）1.広く大きな場所。大場所。2.人のにぎわう場所。大都会。3.芝居で最も見ごたえのある場面。4.花札の遊びで、場に柳、桐以外の二〇点札が出ること。5.囲碁で大きな利益を得るために、必ず石を置くべき場所。6.父親をいう、盗人・てきや仲間の隠語。（二）（形動）おおようで、こせこせしないさま。

（方言）2.（形動）かさばるさま。場所を取るさま。広島県高田郡。愛媛県。

(2)「オッコオ」

『日台』（億劫）費気【煩わしい。面倒くさい】。艱計【困難。難しい】。為難【難しい。骨が折れる】。●（大層）誇較大【ほらを吹く】。凸風【大げさ。ほらを吹く】。

『日国』（億劫）（一）（名）仏語。一劫の億倍。きわめて長い時間。（二）（形動）たやすくてむずかしいさま。転じて、面倒で気が進まないさま。おっくう。（方言）（二）（形動）2.大げさなさま。誇大なさま。長野県下伊那郡。◇おっこ 滋賀県彦根。愛媛県。4.たくさんなさま。たいそうなさま。長野県諏訪。愛媛県。

(3)「オオチャク」

『日台』（横着）詭譎【奸智。佞奸】。甜皮鹹餡【腹黒い。陰険】。野赤【無上に欲張りな】。大胆【大胆】。狡猾【悪賢い。ずるい】。横逆【暴虐】。●（驕傲）看人妹妹【人を見下す】。

『日国』（横着）1.ずうずうしいこと。ずるいこと。ずるいことを押し通すこと。また、そのさま。2.怠けてすべきことをしないさま。骨惜しみをするさま。（方言）3.尊大な

⁵ 『日国』は約45000語の方言を収録している。今回対象とした範囲の語に関しては、『日国』の意味、出所などの記述内容は、『方言』のものと全部同じである。本稿では便宜上、『日国』の記述だけを示す。

さま。愛媛県松山。

(4)「オオドオ」(横道)

『日台』(横道) 偏邪【不正な道】。邪路【邪道】。(横着) 大辨【威張った態度】。野赤【無上に欲張りな】。

『日国』(横道)(名)(方言) 1.傍若無人なさま。大胆なさま。むてっぼうなさま。京都府竹野郡。島根県。岡山県苫田郡。児島郡。広島県芦品郡。高田郡。愛媛県松山。宇和島市。佐賀県。大分県中部。

(5)「カシャ」

『日台』(火車) 三姑六婆【良家の婦女に悪事の媒介をする女】。

『日国』(火車)(方言) 1.意地の悪い女。一筋縄でいかない女。はすっぱ女。島根県。愛媛県温泉郡。大三島。

(6)「カヤス」

『日台』(返)「借物」還【返す】。●「水オー」推倒水【水をこぼす】。

『日国』(反・返・帰・覆)(方言) 3.水などをこぼす。漏らす。富山県砺波。愛媛県松山。

(7)「カヤル」

『日台』(覆)反輪転【ひっくり返る】。「水ガー」水倒出来【水がこぼれる】。●「卵ガー」卵孵【卵が孵化する】。

『日国』(反・返・帰・覆)(方言) 5.水などが漏れ出る。こぼれる。富山県砺波。和歌山県。愛媛県松山。

(瞬) [発音]くなまり>カヤル[淡路・和歌山県・和歌山・讃岐・愛媛周桑・伊予・土佐・対馬]

(8)「ガンギ」

『日台』(雁木)「橋」碼頭【波止場】。碼頭の坎仔【波止場の階梯】。●「鋸」大鋸【大鋸】。●「竿」掛鉤的柴棍【かかりがついている棒】。●(鯢鱈) 没合盤【合わない】。料不对【考えの食い違い】。●「紙蔴」掛風吹線の刀仔【敵の風の糸を切って落とすために風の糸に付ける器具】。

『日国』(雁木)(方言) 28.敵の風(たこ)の糸を切って落とすために風(たこ)の糸に付ける器具。愛媛県松山。

(9)「ゲンシ」

『日台』(軍師) 軍師【軍師。参謀】。参謀【参謀】。●(黒幕) 抽後線的【(教唆) 糸を引く】。

『日国』(軍師)(方言) 2.悪い計略をする人。策謀家。愛媛県大三島。

(10)「コイイ」

「日台」(濃)濃【濃い】。厚【厚い】。「色」暗【暗い】。深【色合いが濃い】。●「汁」洩【濃い】。「毛」茂【茂る。繁茂する。】

「日国」「こい」(濃) 発音 <なまり> コイ。[島根・鳥取・伊予・愛媛周桑・瀬戸内]

(11)「エブ」

「日台」(絵符)籤條【荷物などにつける札。えふ】。号頭【目印。見出。記号。標識】。

「日国」「えふ」(絵符・会符)(方言)荷物に目印のため付ける紙片の類、または荷札など。

◇えぶ：兵庫県淡路島。和歌山県日高郡。島根県石見。岡山県岡山市。児島郡。広島県佐伯郡。高田郡。山口県豊浦郡。徳島県。香川県。愛媛県宇和島市。高知県。高知市。長崎県伊王島。大分県。

(12)「カタグマ」

「日台」(片草)騎雑雞【(子供の遊戯)肩車】。騎雑雞【肩車】。騎【人を肩に跨らせて担ぐこと】。

「日国」「かたくま」(肩駒)(方言)1.小児を肩に乗せたり、首にまたがらせたりして、かつぐこと。肩車。愛媛県。◇かたくま京阪。香川県伊吹島。愛媛県。

(13)「カエコト」

「日台」(替事)換【取り替える】。対換【交換する】。

「日国」「かえごと」(替事)(方言)◇かえこと 富山県。福井県敦賀郡。愛知県尾張。三重県伊賀。滋賀県彦根。京都市。大阪府大阪市。泉北郡。兵庫県。奈良県。和歌山県。岡山県。岡山市。児島郡。山口県玖珂郡。徳島県。香川県。愛媛県。松山。

(14)「カナガナ」(副詞)

「日台」「命—逃ゲル」干乾脱身離。拖命走【命からがら逃げる】。

「日国」方言「かなし」がなし(悲悲)。「かなし」がなし(副)(方言)細々と。ようやく。やっと。滋賀県彦根。京都府竹野郡。大阪市。愛媛県大三島。

(15)「カミヒゲ」

「日台」(髪毛)毛絲【髮筋。髪の毛】。毛碎【髪の毛】。頭毛枝【髮筋。髪の毛】。

「日国」(髪一)方言頭髪。髪の毛。広島県高田郡。徳島県。愛媛県周桑郡・喜多郡。高知県長岡郡・幡多郡。

「日台」で(1)～(9)の語は、共通語の意味のほかに、共通語にない愛媛方言の意味も示されている。(10)～(13)の語は、共通語の意味と同じであるが、語形が方言のままである。(14)と(15)の語は、共通語ではなく、方言としてしか使われない語である。以上の(1)～(15)で、(1)～(9)の語は愛媛方言の意味が加えられた語で、(10)～(15)の語は愛媛方言である。

表(一)『日台大辞典』ア行・カ行における、方言語彙の使用地域の一覧表

[illegible]

2-2 『伊豫松山方言集』『愛媛の方言一語法と語彙』との比較

2-1節の15語のほかにも、『日台』には、愛媛方言と同じ意味で使われている語が、かなり多い。以下では、岡野（1938）『伊豫松山方言集』（以下、『松山』）と武智（1957）『愛媛の方言一語法と語彙』（以下、『愛媛』）を参照して⁶、愛媛方言と同じ意味の記述が見られる、『日台』の見出し語をまとめた。

『松山』と『愛媛』において、『日台』の見出し語と、語形が同じで、意味も同じ語は、計806語⁷である。しかし、どこの方言にせよ、共通語と同じ意味を持つ語（第一義やどの意味を頻用するかでは差がある）は多々あるので、『日台』のこの806語も、すぐには愛媛の方言と断言し難い。

そこで、この806語を、『日台』が編纂される際に参考にされた5冊の先行辞書と照らし合わせた。先行辞書に全く掲載されていない語は、共通語として頻用される語ではなく、方言である可能性が高いと考えられる。調べてみたところ、806語の中で、先行辞書にも載っていない語は、44語であった。すでに愛媛の方言と確認できた「オオバ（大場）」「オッコオ（億劫）」「カエコト（換事）」「カヤル（覆）」「コイイ（濃）」の5語を除くと、残りは39語である。39語の内、「スッコメル」「デモドリ（出戻）」「ドスドスト」「ナンデ（何）」「バツカリ（計）」「ボオサン（坊様）」「ミセヤ（店屋）」「ミンナ（皆）」の8語は、当時の共通語と思われるので、考察対象からは除く。残りの31語は、下記の通りである（該当する箇所のみを挙げる）。

- (16)「オテントオサマ」『日台』（御天道様）天公【神。天帝】。●（日）日公【日の光】。日頭公【御日様】。『松山』（オテントサマ）神様。天。（東京では太陽をさす）
- (17)「キヤイ」『日台』（氣合）「一ガ悪イ」哀痛【気持ちを悪くする】。『愛媛』氣持。
- (18)「オイサン」『日台』（伯叔父）（伯）阿伯【父の兄。伯父さん】。●（叔）阿叔【父の弟。叔父さん】。『松山』「ライサン」伯（叔）父さん、小父さん。
- (19)「カズエル」『日台』（数）算【数える】。数【数える】。『松山』数へる。
- (20)「シヌル」『日台』（死）死【死ぬ】。『松山』死ぬ。『愛媛』動詞奈変活の残存。
- (21)「シヤイ」『日台』（仕合）比武【試合】。『松山』試合。しあひ。
- (22)「ダス」『日台』（打）打【ダース】。「一」一打【一ダース】。『松山』打。英語ダズン。
- (23)「ヒヤガル」『日台』（乾上）乾去【乾く】。無水去【乾上がる】。『松山』かわく。
- (24)「ベシオル」『日台』（拗折）拗折【折る。圧し折る】。『松山』折る。（べしは強勢）。

⁶ 『伊豫松山方言集』は2614語の松山方言を集めて、それぞれの語の意味と対応する東京語を示した方言集である。『愛媛の方言一語法と語彙』は、愛媛県内の45地区における454項目の愛媛方言の語法と、6233語の愛媛方言の分布を詳しく示している。

⁷ 述べ語数は999語で、異なり語数は806語である。

- ㉔「ミヤイ」【日台】（見合）看親戚【見合い】。【松山】結婚する男女の面会。
- ㉕「アオヌク」【日台】（仰向）向天【上を向く】。挙頭【仰むく】。【愛媛】あおむく。
- ㉖「オオツモゴリ」【日台】（大晦）過年日【大晦日】。【松山】大晦日。
- ㉗「シリベタ」【日台】（尻）脚川頼【尻こぶた】。脚川旁【尻こぶた】。【松山】尻。しり。
- ㉘「ウサル」【日台】（紛失）不見去【紛失する。無くなる】。【松山】紛失する。無くなる。
- ㉙「オセ」【日台】（大人）大人【大人】。【松山】成人。丁年以上の人。
- ㊱「クシクシト」【日台】「一泣ク」口口吼【しくしくと泣く】。【愛媛】声を出さずに泣くこと。
- ㊲「クロマイ」【日台】（玄米）糙米【玄米】。【愛媛】玄米。
- ㊳「ササケル」【日台】口口【ささくれる。毛羽立つ】。【松山】乱れる、小さく裂ける。
- ㊴「ナスクル」【日台】（塗抹）抹住【擦り付ける】。【松山】塗る。【愛媛】塗りつける。
- ㊵「ハサケル」【日台】（挟）挟【挟む】。挿【差し挟む】。【松山】挟む。【愛媛】はさむ。
- ㊶「ハンプ」【日台】（半分）一半【半分】。半份【半分】。【松山】半分。はんぶん。
- ㊷「ヒヤイ」【日台】（冷）冷【寒い】。滑【冷える】。【愛媛】寒い。
- ㊸「ヒリカズク」【日台】「小便オー」糸尿【小便をもらす】。【松山】大小便をもらす。
- ㊹「ホドヤイ」【日台】（程合）度【度合い】。準節【程合い】。【松山】機会。適度。
- ㊺「ドオズク」【日台】（胴突）打【打つ】。損【殴る】。【愛媛】大きく打つ。
- ㊻「トオチリ」【日台】（唐縮）羽紗【ゴロを織る糸】。【愛媛】メリンスmerinos（西）。
- ㊼「ムネカケ」【日台】（胸掛）肚貫褌【腹当てに狼股を付着したようなもので、子供の着る物】。【松山】夏日子供の着物、腹と尻とを隠すやうに出来ている。
- ㊽「ヌイアゲ」【日台】（縫上）褌紬【あげ】。【松山】着物の上げ。【愛媛】肩あげ。腰あげ。
- ㊾「カイル」【日台】（歸）「去」転去【帰る】。「来」転来【帰る】。【松山】かへる。
- ㊿「ジャコ」【日台】（雑魚）雑碎魚【ざこ】。【松山】雑魚。ざこ。
- ㊱「マクレル」【日台】（捲）捲噓【捲れる】。●「衣」邀起来【服が皺になる】。●「刃ガー」倒鉞【刃が捲れる】。【愛媛】刃が折れ曲る。

㊱の「オテントオサマ」は現代共通語と語形が同じであるが、『日台』には共通語にない愛媛方言の意味も示されている。㊱～㊱は全部、現代共通語で用いられていない語形である。その内、㊱～㊱は『日国』に載っておらず、㊱～㊱は『日国』に載っているが、現代共通語の用例が記載されていない。㊱～㊱には『日国』に方言の記述がある。㊱～㊱は『日国』に載っているが方言の記述はない。しかし、現代共通語で用いられない語形であることと、『松山』や『愛媛』に採録されていることから、方言である可能性が高い。㊱～㊱の語は、現代語で方言として理解されているが、『日台』編纂当時においても、先行辞書に見られないことから、方言である可能性が高いと考えられる。『日台』を編纂する際に、5冊の先行辞書

の語のほかに、(46)~(49)のような語も必要だという編纂者の判断があり、取り入れられたのであろう。

また、先行辞書に載っていない44語を除いた、残りの762語は、先行辞書に載っている語であるが、中には先行辞書にない意味も付されている語がある。その先行辞書にない意味と、『松山』や『愛媛』の記述が合致するものは、下記の通りである。(先行辞書に載っていない意味だけを下記に挙げる。)

(47)「イッサンマイ」『日台』(一三味) ● (皆) 攏総【皆。悉く】。計計【皆。全部】。

【愛媛】いっさいがつさい。悉く。

(48)「サンドマメ」『日台』(三度豆) 敏豆【インゲン豆】。

【松山】隠元大角豆。いんげんささげ。【愛媛】さやえんどう。

(49)「スケル」『日台』(助) ● (敷) 敷【敷く】。「セリンニ瓦オー」烘爐礮磚仔【七厘にレンガを敷く】。【松山】或物の下に他の物を敷く。

(50)「ノケル」『日台』(除) ● 「貯」藏下得【しまい込む】。【松山】仕舞ふ。【愛媛】しまっておく。

(51)「マワリ」『日台』(廻) ● 「私ノー」輪着我【私の番になる】。【愛媛】順番。

(52)「ムギコ」『日台』(麦粉) ● (麦焦) 麦過炒磨的粉【挽かれて炒られた小麦粉】。麦麴【麦焦がし】。【松山】煎麦の粉。

このことから、(47)~(52)の6語は、『日台』で愛媛方言の意味が施されている語と見做すことができよう。

このように愛媛方言が多く採られているのは、編纂者の小川尚義によるところが大きいと思われる。小川尚義の経歴⁸を簡単に示すと、下記ようになる。

1869年、愛媛県松山市生まれ。松山中学校(1886年卒業)、第一高等中学校を経て、1896年、帝国大学文科大学博言学科を卒業。同年、恩師の上田萬年博士から、台湾総督府学務部長の伊沢修二を紹介され、台湾に赴任する。台湾総督府学務部編集事務嘱託に任命され、台湾総督府編集官、学務課長、台北高等商業学校校長などを歴任。1928年に台北帝国大学が設立されると、言語学教室教授に着任し、1930年には、同大学文政学部教授に就任した。台湾語研究と高砂語研究の権威とも言われるほど、台湾語、高砂語研究に大きな貢献をした。1936年、退官し、松山での余生も台湾諸言語の研究に精力を注いだ。1947年没、享年78。

小川尚義は、愛媛県松山市で生まれてから、松山中学校を17歳で卒業するまで、つまりは言語形成期⁹を愛媛県で過ごした。小川尚義が愛媛方言話者であったことが、『日台』の見

⁸ 馬淵(1974)を元に、酒井(1994)を参考にした。

出し語に愛媛方言が見られることと、関わっていると考えられる。

3 まとめ

本稿では、『日国』『方言』の見出し語の意味との比較を通じて、『日台』の見出し語には、編纂者小川尚義の出身地である、愛媛方言が採録されていることを述べた。そして、愛媛県の方言に関する方言集や、『日台』が編纂される際に参考にされた5冊の先行辞書との比較作業によって、『日台』には、愛媛方言語形の見出し語と愛媛方言の意味が加えられた見出し語が、少なからず採録されていることも実証できた。

小川尚義は、1900年の国語研究会第1回例会で、「仮名遣ニ関スル調」という演説を行った。そして、その中の「国語教授上ノ困難」という項目で、「目下台湾ニ於テ、国語教授ノ大精神ハ、即チ現今吾人ガ使用シ居ル談話語ヲ以テ土人ニ教ヘ、土人ヲシテ一方ニハ我国語ヲ聴テ之ヲ了解シ、一方ニハ之ヲ用キテ己レノ思想ヲ言ヒアラハスコトヲ得ルニ至ラシメバ、国語教授目下ノ急務ハ充サレタルモノニシテ（中略）」（下線は筆者）と述べている。このことから、『日台』を編纂する際に、当時使われている談話語の採録を重んじていたことが、推測される。2節で挙げた愛媛方言も、小川尚義が当時の談話語として頻用される語だと判断して、採録したのではないだろうか。このように、『日台』に愛媛方言が採録されていることには、談話語の選定に当たって、小川尚義が愛媛方言話者であったことが、少なからず影響を及ぼしていると考えられる。

1節で述べたように、『日台』は、台湾語研究のみならず、日本語研究においても非常に価値のある辞書であり、日本語の言語資料としてもっと活用されるべきものである。しかしながら、その利用に当たっては、本稿で述べた辞書の特徴を、頭に入れておく必要があると言える。

<参考文献>

- 岡野久胤 1938 『伊豫松山方言集』春陽堂書店
小川尚義 1900 「仮名遣ニ関スル調」『国語研究会報』1号 国語研究会復刻版ひるぎ社1996
呉守禮 1955 『近五十年来台語研究之總成績』自費出版

⁹ 柴田（1956）は、「言語形成期」について、次のように述べている。「思春期までの間でも、特に、五、六歳から十三、四歳の間が、言語習慣がかたまるのに重要な時期であると見られる。わたしたちは、かつて、この時期を「言語形成期」と仮に呼んで、言語形成期における居住地を共通語化の要因として取り上げた。（中略）言語形成期で人の一生の言語生活が決まる。おとなのことは言語形成期の言語状況で決まるというて差支えないであろう。」（p247）

- 洪惟仁 1994 「小川尚義與高本漢漢語音研究之比較—兼論小川尚義在漢語研究史上應有的地位」
『台灣史研究』第一卷第二期（中國語）
- 蔡茂豐 2003 『台灣日本語教育の史的研究』（上）（下）台灣大新書局
- 酒井亨 1994 「小川尚義—ある偉大な台湾語学者と故郷・松山」『ふおるもさ』台灣文化研究会
- 柴田武 1956 「言語形成期というもの」『ことばの講座6子どもとことば』創元社
- 杉山正世 1961 「方言の実態と共通語化の問題点（愛媛）」『方言学講座第三卷西部方言』東京堂
- 台灣教育会編 1982 『台灣教育沿革誌』背史社
- 武智正人 1957 『愛媛の方言—語法と語彙』愛媛大学地域社会総合研究所
- 富田哲 1998 「日本統治時代初期台湾における日本語研究—国語教授研究会および小川尚義の研究について—」『日本語教育』99号
- 馬淵東一 1974 「故小川先生とインドネシア語研究」『馬淵東一著作集』第三卷 社会思想社
- 村上嘉英 1989 「日本人在十九世紀末期对台湾閩南方言音韻的研究工作」『天理大学学报』160号（中国語）
- 柳田征司 1984 「日本の歴史から見た愛媛県方言の音韻」『文化愛媛』第三卷第二号

<使用辞書>

『和英語林集成第三版』J.Cヘボン1886、復刻版1974講談社／『言海』大槻文彦1889-91秀英社／『日本大辞林』物集高見1894宮内省／『帝国大辞典』藤井乙男・草野清民1896三省堂／『ことばのいづみ』落合直文1900大倉書店／『日台大辞典』小川尚義1907、復刻版1993台湾武陵出版社／『台日大辞典』小川尚義1931-32、復刻版1993台湾武陵出版社／『日本国語大辞典第二版』小学館国語辞典編集部2000小学館／『日本方言大辞典』尚学図書編1989小学館

（りん びしゅう 岡山大学大学院文化科学研究科）